

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

整理番号 634

事業名	農業高校生研修事業		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	農業振興部	農林振興課		款	農林水産業費・6款
電話	0799 - 43 - 5025			項	農業費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務		法的根拠 (法令、条例、要綱等)	目	農業振興費・3目
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱			職 食 づくり 夢あふれ 働く場を生み出すまちづくり	
	まちづくりの目標		ふやさんか 食づくりの担い手【農漁業】		
	施策目標		食づくりの源である豊穰の大地と海を守り、農業や漁業に携わる市民(若者、女性、元気な高齢者層など)を育てる		
該当する事業について「 」を選択			施策的事业	業務委託	負担金補助

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	対象(誰を・どのような状況の人に)	農業高校の農業体験研修生を受け入れる農家。		対象人数(人)	2
	目的	意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 南あわじ市が、兵庫県立高等学校の農業に関する学科等に在学する生徒を市内受入農家で体験研修を実施させることにより、農業教育の充実、振興を図るとともに、市内農業の振興を図り、次代の農業を担い、農村社会を支える農業後継者の育成、確保を図るための支援を行う。			
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) 南あわじ市長と兵庫県高等学校教育研究会農水産部会長が協約を締結し、各農業高校に説明いただき、農業体験研修の希望者を学校長の推薦書、保護者の同意書、志望理由書を受け、受入農家を決定し、運営協議会を通じて受入農家に助成する。			
	背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など) 現在、当市においても今後の農業を担う農業後継者不足が深刻な問題となっており、後継者の確保・育成が喫緊の課題となっている。このままでは産地の維持が難しくなると予測される。このような状況の中で、農業後継者の育成を図るための支援を行う。			
	事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市直営 <input type="checkbox"/> 民間・その他 ()			
事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし				
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input checked="" type="checkbox"/> 新市から				

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

「実施内容」により得られる活動結果指標 (アウトプット)	指標名	農業高校生の研修延べ日数			指標単位
		日			
	指標説明 (指標算出方法等)	受入計画日数			
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	目標値	100	50	50	40
	実績値	48	24	17	
達成度 (%)	48.0	48.0	34.0	-	
目標値設定の考え方	前年度実績				
アウトプットにより達成される「目的」に対する事業の成果指標 (アウトカム)	指標名				指標単位
	指標説明 (指標算出方法等)				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	目標値				
	実績値				
達成度 (%)	-	-	-	-	
目標値設定の考え方					
資源配分 (インプット)		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	直接事業費 (千円)	248	126	263	210
	農業高校生研修受入農家助成	248	126	263	210
	財源 (千円)				
	国				
	県				
	起債				
	その他				
	一般財源[A]	248	126	263	210
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)				
事業量2(事業に要した人数)					
年間経費([A]+[B])	248	126	263	210	
「目的」対象人数1人当り経費 (千円)	124.0	63.0	131.5	105.0	
受益者人数(2)1人当り経費(千円)	124.0	63.0	131.5	105.0	
経費に関する補足説明					

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

達成度	活動結果指標目標達成度	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	自己評価 (5点評価)
		%	48.0	48.0	34.0	-	
(アウトプットの達成度分析、問題点・課題などを記入。) 受け入れ先を学校の卒業生宅に依頼するため、受入が困難な場合が多い。							3
有効性	成果指標目標達成度	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	自己評価 (5点評価)
		%	-	-	-	-	
	成果向上率	%	-	-	-	-	
(事業実施による目的に対しての有効性分析、問題点・課題などを記入。) 市内の畜産業を営む農家と友好が図れ意義があると考えられる。							4
効率性	活動実績1単位当り経費	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	自己評価 (5点評価)
		千円	5.2	5.3	15.5	-	
	効率性増減率	%	-	1.6	194.7	-	
(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 今すぐには効果が見えない。							4
必要性	公共性の高低	<input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低					自己評価 (5点評価)
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 農業後継者不足は将来の日本の農業生産(食物自給率40%)を脅かす大問題であるため、長い目で見ていく必要性があると考えられる。						
							4
総合評価	自己評価をふまえた現状分析		<div data-bbox="821 1473 1388 2016" style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <p>評価グラフ</p> </div>				
	農業後継者不足は南あわじ市の農業を維持していくためにも重要な課題であると考えられるため、目の前の効果を期待するより長い目で見ていく必要があると考えられる。						

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	高齢化等による農業後継者不足は重要な課題であるため、後継者育成は必要である。	同左
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果 (現状維持以外の場合)	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	コスト面	コスト面
(現状維持の場合も記入)	仮に 事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) 島外高校の生徒の受入のため、効果は見えにくいですが農業後継者不足の解消には必要であると 考えられる。	